

合格点獲得の戦略と 学習のラストスパート

経営で5割，政策で7割をベースに上積みしよう

播野 晋介

日本マンパワー 講師／中小企業診断士



1 攻略の定石を知る

中小企業診断士第1次試験（以下，1次試験）の科目である「中小企業経営・中小企業政策」の試験対策としては，受験者の間で以下のことが知られている。

- ①中小企業経営分野と中小企業政策分野の配点比率は，50：50である。
- ②中小企業経営分野では，前年版中小企業白書から（ほぼすべての問題が）出題される。
- ③中小企業政策分野では，本年度の中小企業施策が出題される。
- ④難易度は，中小企業経営分野＞中小企業政策分野であり，中小企業経営分野で50%，中小企業政策分野で70%程度を正答することが，科目合格点をとるコツである。

①については，過去問を見る限り，配点だけでなく設問数も両分野で同数となっている（中小企業経営と中小企業政策の両分野から21設問ずつ出題され，配点の合計も50点ずつ）。

②についても，近年の問題はほぼすべてが前年

版中小企業白書から出題されており，これを熟読し，その内容がしっかりとインプットされていれば高得点が狙える。

③については，間違いではないが，「本年度の施策」といっても，中小企業施策には継続性があるため，過去の本試験で取り上げられた施策が，切り口も含め，ほぼそのまま出題されることが多い。

④については，中小企業白書はどの年度も大著（上巻のみで500ページ以上）であり，他科目の学習も必要な受験者が，隅から隅まで熟読することは難しい。また，年度によっては，細かい点や思いもよらない部分に取り上げられることもあるため，同白書の内容をひととおりインプットした受験者であっても，中小企業経営分野で5割を大きく超える正答率を得るのは難しい。

一方，中小企業政策分野は，過去問と酷似する出題が全体の7割を占め，難易度も安定しており，平均レベルの学習をこなしてきた受験者にとっても対応しやすい。

そこで，試験対策として，中小企業経営分野では50%（25点），中小企業政策分野では70%（35点）の正答率を目指すべきだといわれるようになった。